

Pro-face®

Windows XP Embedded リファレンスマニュアル

CFカード容量 : 2GB
ファイルシステム : NTFS

対応言語 : マルチランゲージ版
(日本語を含む)

はじめに

このたびは、(株) デジタル製の Windows XP Embedded (以下、XPE と称します) をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用にあたっては、本書をよくお読みいただき、XPE の正しい取り扱い方法と機能をご理解いただきますようお願いいたします。

XPE は Windows XP をコンポーネント化した製品です。

接続機器・アプリケーションなど、Windows XP と完全互換ではありませんので、運用時に動作のご確認をお願いいたします。

対象機種

シリーズ名	本体型式	本体 リビジョン	対応 CF カード型式	ボリュームラベル
PS-3000B	PS3000B-BA	Rev. なし～	PS345XA-XPE2G-BLD	345XAXPE2M1 ～
PS-3001B	PS3001B-BD			
PS-3450A	PS3450A-T41 PS3450A-T41-24V			
PS-3451A	PS3451A-T41-24V			
PS-3650A-T41 PS-3651A-T41	PS365*A-T41 PS365*A-T41-24V	Rev.E ～ Rev. なし～	PS365XA-XPE2G-BLD	365XAXPE2M1 ～
PS-3650A-T42 PS-3651A-T42	PS365*A-T42 PS365*A-T42S PS365*A-T42-24V PS365*A-T42S-24V	Rev. なし～	PS365XA-XPE2G-02-BLD	365X2XPE2M1 ～
PS-3710A	PS3710A-T41 PS3710A-T41-24V	Rev. なし～	PS3710A-XPE2G-BLD	3710AXPE2M1 ～
PS-3711A	PS3711A-T41 PS3711A-T41-24V	Rev. なし～	PS3711A-XPE2G-BLD	3711AXPE2M1 ～
PL3000 (Core Duo)	APL3000-***-CD2G-***	Rev. なし～	APL3000-XPE2G-CD-BLD	PL3KCDXPEM2 ～
PL3000 (Celeron M)	APL3000-***-CM18-***	Rev. なし～	APL3000-XPE2G-CM-BLD	PL3KCMXPEM2 ～

ボリュームラベルの末尾の数字はバージョンになっており、ソフトリビジョンと対応しています。
最新版のマニュアルや Driver、Utility は (株) デジタルのホームページからダウンロードできます。
またよくあるご質問や役立つ情報も Q&A 集として (株) デジタルのホームページに用意しています。
ご使用用途にあわせて参照してください。 <http://www.proface.co.jp/otasuke/>

お断り

1. 本製品および本書の内容の、一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
2. 本製品および本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
3. 本製品および本書の内容に関しては、万全を期して作成いたしました。が、万一誤りや記載もれなど、ご不審な点がありましたらご連絡ください。
4. 本製品を使用したことによるお客様の損害その他の不利益、または第三者からのいかなる請求につきましても、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

商標などについて

本書に記載の会社名、商品名は、各社の商号、商標（登録商標を含む）またはサービスマークです。本製品の表示・記述の中では、これら権利に関する個別の表示は省略しております。

商標	権利者
Microsoft, Windows	米国マイクロソフト社
Pro-face	(株) デジタル
Adobe	アドビシステムズ社

なお、上記商号・商標類で、本書での表記が正式な表記と異なるものは以下のとおりです。

本書での表記	正式な表記
Windows XP	Microsoft [®] Windows [®] XP operating system
Windows XP Embedded	Microsoft [®] Windows [®] XP Embedded operating system
Adobe Reader	Adobe [®] Reader [®]

マニュアルの読み方

本書は XPE の機能や設定方法について特記しています。

ハードウェアに関する使用上の注意や設置方法などは、同梱の取扱説明書または本体のハードウェアマニュアルを参照ください。

またソフトウェアに関するシステムのセットアップなどは、本体のリファレンスマニュアルを参照してください。

マニュアル表記上の注意

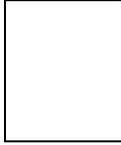
本書で使用している用語や記号等の意味は以下のとおりです。

 重要	この表示の説明に従わない場合、機器の異常動作やデータの消失などの不都合が起こる可能性があります。
 MEMO	ご使用に際して、ポイントとなる項目です。
※	脚注で説明している語句についています。
(1) (2)	操作手順です。番号に従って操作を行ってください。
XPE	Windows XP Embedded の略称です。
	関連事項の参照ページを示します。

梱包内容

梱包箱には、XPE 専用の梱包物として以下のものが入っています。ご使用前に必ず確認してください。

End User License Agreement 1 枚



MEMO

- 品質や梱包などには出荷時に際し、万全を期しておりますが、万一破損や部品不足、その他お気付きの点がありましたら、直ちに販売店までご連絡くださいますようお願いいたします。
- 最新版のマニュアルや Driver、Utility は (株) デジタルのホームページからダウンロードできます。

<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

目次

はじめに.....	1
対象機種.....	1
商標などについて.....	2
マニュアルの読み方.....	3
マニュアル表記上の注意.....	3
梱包内容.....	4
目次.....	5

第1章 Windows XP Embedded について

1 特長.....	1-2
2 主要アプリケーション一覧.....	1-4
3 XPE でのコントロールパネル機能一覧.....	1-5
4 ライトフィルタ（書き込み禁止）の設定を変更したい.....	1-6
4.1 ライトフィルタの設定手順.....	1-7
4.2 ライトフィルタによる CF カードへのアクセス動作について.....	1-8
5 同じ設定環境を複数のパネルコンピュータにコピーしたい（CF カードをコピーしたい）.....	1-10
5.1 CF カードのコピー手順（OS の言語を変更しない場合）.....	1-10
5.2 CF カードのコピー手順（OS の言語を変更する場合）.....	1-11
6 ライトフィルタによって発生するメモリリークを解消したい.....	1-13
6.1 RAM Disk の設定手順.....	1-13
7 OS の言語 / キーボードレイアウトを変更したい.....	1-17
7.1 OS の言語 / キーボードレイアウトの変更手順（LangShell.exe）.....	1-17
7.2 言語選択について.....	1-22
8 起動から作業開始までの時間を短縮したい.....	1-23
8.1 HORM の設定手順.....	1-24
8.2 HORM の解除方法.....	1-26
9 画面にキーボードを表示させたい.....	1-27
9.1 入力フォントサイズの変更手順.....	1-27
10 画面にタッチして操作したい.....	1-29
10.1 FP シリーズと本体をシリアル接続したい.....	1-29
10.2 タッチ操作の有効 / 無効切り替え手順.....	1-30
11 ユーザーアカウント作成時の注意事項.....	1-31
12 本体の電源を切るときの注意事項.....	1-33
13 CF カードのバックアップ / リカバリについて.....	1-34
14 制限事項.....	1-35

第2章 トラブルシューティング

1	トラブルの内容と対処方法.....	2-2
---	-------------------	-----

付録

1	「IN-fINITY soft 製 KeyClick32」規約.....	A-2
2	Mouse Emulation Software ソフトウェア使用権許諾契約書.....	A-3

1 Windows XP Embedded について

1	特長.....	1-2
2	主要アプリケーション一覧.....	1-4
3	XPE でのコントロールパネル機能一覧.....	1-5
4	ライトフィルタ（書き込み禁止）の設定を変更したい.....	1-6
5	同じ設定環境を複数のパネルコンピュータにコピーしたい（CF カードをコピーしたい）	1-10
6	ライトフィルタによって発生するメモリリークを解消したい.....	1-13
7	OS の言語 / キーボードレイアウトを変更したい.....	1-17
8	起動から作業開始までの時間を短縮したい.....	1-23
9	画面にキーボードを表示させたい.....	1-27
10	画面にタッチして操作したい.....	1-29
11	ユーザーアカウント作成時の注意事項.....	1-31
12	本体の電源を切るときの注意事項.....	1-33
13	CF カードのバックアップ / リカバリについて.....	1-34
14	制限事項.....	1-35

1 特長

XPE は、Windows XP をコンポーネント化した OS であり、ライトフィルタなどの組み込みデバイスに特化した機能を持つ OS です。

重要

- CF カードをプライマリマスタ接続 (Disk0) にしてください。
- バックアップデータがなければリカバリが行えません。出荷状態もしくは必要なアプリケーション等のインストールが完了した状態でバックアップを行ってください。

☞ [13 CF カードのバックアップ / リカバリについて] (1-34 ページ)

MEMO

- 最新版のマニュアルや Driver、Utility は (株) デジタルのホームページからダウンロードできます。

<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

(株) デジタル製の XPE には以下の特長があります。

■ ライトフィルタ機能 (CF カードへの書き込みを禁止する機能)

CF カードへの書き込みを禁止する機能です。CF カードへの書き込み回数削減のため、通常はライトフィルタを有効にしてください。また、ライトフィルタ機能を有効にしておく、シャットダウン操作を実施せずに、本体電源を切ることが可能となります。

☞ [4 ライトフィルタ (書き込み禁止) の設定を変更したい] (1-6 ページ)

■ マルチランゲージ対応

XPE は英語 (出荷時設定)、日本語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語に対応しています。

OS 起動時にお使いになりたい言語を選択いただけます。

☞ [7 OS の言語 / キーボードレイアウトを変更したい] (1-17 ページ)

MEMO

- 上記の言語以外にも追加でインストールできる言語があります。追加言語に関してはデジタルサポート専用サイト、おたすけ Pro! に言語追加インストーラを用意しています。用途に合わせてインストールしてください。

<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

■ ハードディスクを組み合わせ使用

CF カードに別売のデバイスを組み合わせることでデータエリアを広げ、大きいサイズのアプリケーションを使用することができます。

MEMO

- 組み合わせたデバイスにはライトフィルタ機能はありません。

■ System Monitor 搭載

システムの異常監視を可能にします。

詳細については本体のリファレンスマニュアルを参照してください。

■ タッチパネルドライバ (UPDD) 対応

タッチ操作でマウスのような入力操作ができます。

 [10 画面にタッチして操作したい](1-29 ページ)

■ KeyClick 搭載

画面上にキーボードを表示し、タッチパネルからのキー入力を可能にします。

 [9 画面にキーボードを表示させたい](1-27 ページ)

■ 休止状態

本体の電源を切る直前の作業状態を保存しておき、次回本体を立ち上げた時に休止状態に入る前の状態から作業を開始できます。システムを休止状態にすることで、起動時間を短縮できます。

 [8 起動から作業開始までの時間を短縮したい](1-23 ページ)

■ RAM Disk

ライトフィルタによって発生するメモリリークを解消したい場合は、RAM Disk を使用します。RAM Disk は直接メモリ領域に書き込みを行うため、ライトフィルタ設定の有無に関わらず指定したサイズを揮発性ディスク領域として何度でも使用できます。

 [6 ライトフィルタによって発生するメモリリークを解消したい](1-13 ページ)

2 主要アプリケーション一覧

出荷時に組み込まれている主なアプリケーションは以下の一覧のとおりです。

アプリケーション名	内容
Internet Explorer 6	Microsoft 社の Web ブラウザです。
日本語 IME	日本語入力用かな漢字変換ソフトウェアです。
コントロールパネル	本体をカスタマイズすることができます。コントロールパネルからは、新しいハードウェアの追加、プログラムの追加と削除、画面表示の変更などを始めとして、さまざまな操作を開始できます。System Monitor 設定画面もここから表示できます。
アクセサリ	Microsoft 社のメモ帳、ペイント、スクリーンキーボード、コマンドプロンプト、ハイパーターミナルを実装しています。
KeyClick	画面上にキーボードを表示し、キー入力を行います。日本語と英語のみ対応しています。
UPDD	タッチパネル操作を行います。
EWF Setting Tool ※ ¹	ライトフィルタの設定を行います。
Lang Shell ※ ¹	OS 言語およびキーボードレイアウトの設定を行います。
System Monitor	システムの異常監視を行います。

※¹ 設定変更を行うには Administrator 権限が必要です。

MEMO

- よくあるご質問や役立つ情報も Q&A 集として (株) デジタルのホームページに用意しています。
ご使用用途にあわせて参照してください。
<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

3 XPE でのコントロールパネル機能一覧

XPE でのコントロールパネルの機能および設定状況は以下のようになっています。

アイコン名	内容	補足（有効範囲等）
インターネット オプション	インターネットの表示画面や接続情報を構成します。	出荷時設定は、キャッシュサイズが 1MB、履歴保存日が 0 日、キャッシュ格納フォルダが Z:¥(RAM Disk) になっています。
フォルダ オプション	ファイルやフォルダの表示のカスタマイズ、ファイルの関連付けの変更、ネットワークファイルのオフライン利用を設定します。	出荷時設定は、ネットワークファイルのオフライン利用は無効になっています。
プリンタと FAX	インストールしているプリンタを表示します。また新しいプリンタのインストール設定を行います。	FAX は対応していません。
プログラムの追加と削除	プログラムや Windows コンポーネントをインストールおよび削除します。	Windows コンポーネントの追加と削除、および、Windows Update は使用できません。
インターネット インフォメーション サービス	インターネットおよびイントラネットの Web サイトのための Web サーバーであるインターネット インフォメーション サービスを管理します。	出荷時設定は、インターネット インフォメーション サービスが無効になっています。

重要

- 各設定を行う前に、ライトフィルタを無効にしてから実施してください。ライトフィルタが有効の場合、変更した内容は保存されません。
設定の変更後、ライトフィルタを有効に戻すことをおすすめします。

 [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)

4 ライトフィルタ（書き込み禁止）の設定を変更したい

XPE は、ライトフィルタ (CF カードへの書き込みを禁止する機能) を実装しています。

ライトフィルタを有効にすることにより、CF カードへの書き込みを禁止することができます。

CF カードへの書き込みを禁止することにより、破損や書き込み回数による寿命の低下を防ぐことができます。

重要

- ライトフィルタで保護されていないデバイス (CF カード以外) へ書き込みを行っている場合に電源を切るとデータ破損の原因になります。

 [12 本体の電源を切るときの注意事項](1-33 ページ)

- 各種設定、ドライバの追加、レジストリ変更を行う場合は、必ずライトフィルタを無効にしてください。ライトフィルタが有効の場合、OS などへの設定情報は OS 再起動時にすべて破棄されてしまいます。設定を変更する際は必ずライトフィルタを無効にしてください。

設定の変更後、ライトフィルタを有効に戻すことをおすすめします。

4.1 ライトフィルタの設定手順

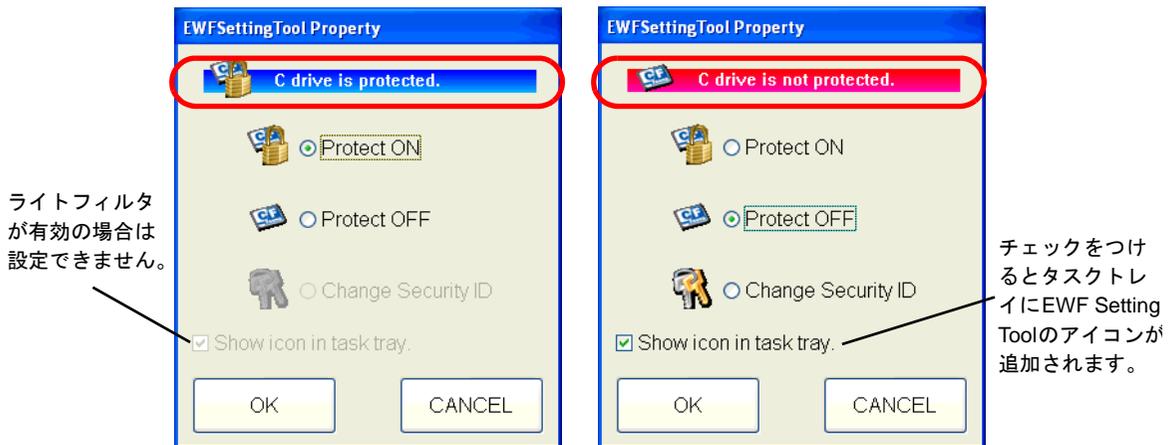
ライトフィルタの設定は「EWFSettingTool」ツールを使用して変更します。このツールには以下の機能があります。出荷時はライトフィルタが無効になっています。

- ライトフィルタ有効 (Protect ON)
- ライトフィルタ無効 (Protect OFF)
- セキュリティ ID の変更 (Change Security ID)

重要

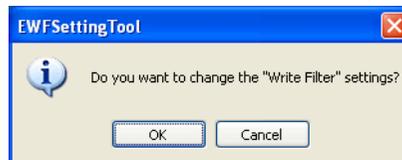
- ライトフィルタの設定変更を行うには Administrator 権限が必要です。

- (1) [スタート]→[ファイル名を指定して実行]を開き次の場所の実行ファイルを起動します。
C:\¥Proface¥EWFSettingTool¥EWFSettingTool.exe
- (2) 表示画面上部でライトフィルタの現在の状態を確認してください。



- (3) 設定を選択してください。
- (4) [OK] をクリックすると、設定変更を確認するダイアログボックス [Do you want to change the "Write Filter" settings?] が表示されますので、[OK] をクリックしてください。設定を変更すると自動的に再起動します。

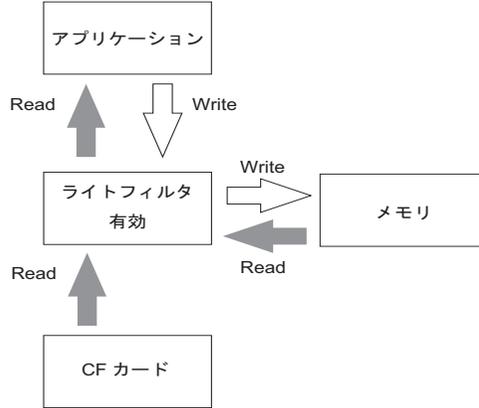
設定の変更が反映されるのは、次回再起動後です。



4.2 ライトフィルタによる CF カードへのアクセス動作について

■ライトフィルタが有効の場合

- Read : CF カードに直接アクセス
- Write : メモリにアクセス



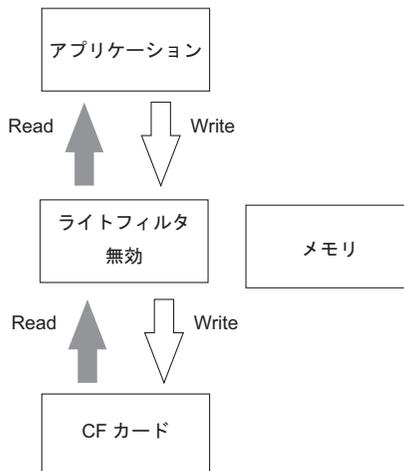
MEMO

- メモリ上に追加および変更されたデータがある場合には、メモリ上のデータが優先されます。設定の変更後、ライトフィルタを有効に戻すことをおすすめします。
- ライトフィルタを有効に設定した状態で CF カードに書き込みを行うと、メモリーリークが発生します。
メモリーリークを解消するには以下を参照してください。

☞ [6 ライトフィルタによって発生するメモリーリークを解消したい](1-13 ページ)

■ライトフィルタが無効の場合

- Read : CF カードに直接アクセス
- Write : CF カードに直接アクセス



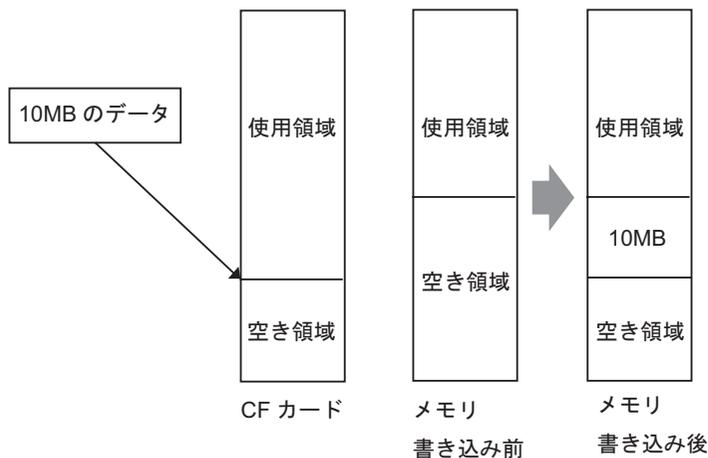
MEMO

- CF カードへの書き込み時に本体の電源を切るとデータの破損につながりますので、通常はライトフィルタを有効にしてください。

■ライトフィルタ使用時の注意事項

- ・ ライトフィルタを有効にすることにより、CF カードへの書き込みはすべてメモリ上に行われます。メモリ上に書き込まれたデータを削除しても、情報がわずかに残る場合がありますが、システムを再起動するとそれらも削除されます。
- ・ CF カードに空き領域が存在しても、メモリ上に空き領域がない場合にデータを書き込むとメモリ不足エラーが発生します。また、メモリ上に空き領域が存在し、CF カードに空き領域がない場合はディスクの空き領域不足エラーが発生し、データが書き込みません。データを書き込む際は CF カードと、メモリの空き領域に十分ご注意ください。

例) ライトフィルタ有効状態にて、10MB のデータの書き込みを行った場合



<10MB のデータが書き込まれる条件>

- ・ CF カードの見かけの空き領域が 10MB 以上
- ・ メモリの空き領域 10MB + OS が正常に動作するために必要なメモリ空き領域

<10MB のデータが書き込まれたあとの状態>

- ・ CF カードの見かけの空き領域が 10MB 減ります。
- ・ メモリの空き領域が 10MB 減ります。

<10MB のデータを削除したあとの状態>

- ・ CF カードの見かけの空き領域が、10MB のデータを書き込む前に戻ります。
- ・ メモリの空き領域は書き込まれた状態から変化しません。

- ・ 多くのデータを書き込むと、空きメモリは減少します。そのため使用中は、CF カードへの書き込み動作を極力控えていただく必要があります。

(株) デジタル製 XPE ではこの問題を解決するために、RAM Disk を実装しています。

RAM Disk は、指定したサイズを揮発性ディスク領域として使用でき、直接メモリ領域に書き込みを行うため、ライトフィルタの有無に関わらず、領域を何度でも使用できます。

RAM Disk の詳細および設定は、以下を参照してください。

☞ [6 ライトフィルタによって発生するメモリーリークを解消したい](1-13 ページ)

5 同じ設定環境を複数のパネルコンピュータにコピーしたい (CF カードをコピーしたい)

CF カードと同じ設定環境を複数のパネルコンピュータにコピーしたい場合は、以下の手順に従い CF カードのコピーをしてください。

MEMO

- 以下の手順を踏まずにコピーを行うと、コピー元の CF カードと同じセキュリティ ID の CF カードが作成されます。セキュリティ ID とは、各端末に割り振られる固有の ID です。セキュリティ ID が同じ場合、Microsoft ネットワーク上では同一端末とみなされます。

5.1 CF カードのコピー手順 (OS の言語を変更しない場合)

- (1) ライトフィルタを無効にしてから実施してください。

ライトフィルタが有効の場合は設定できません。

☞ [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)

- (2) 「EWFSettingTool.exe」を起動し、以下の画面にて「Change Security ID」を選択し「OK」をクリックしてください。

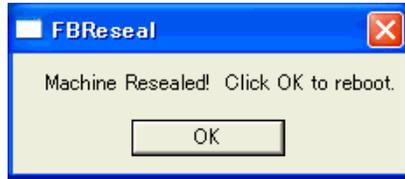
(起動ファイル先は、C:\Proface\EWFSettingTool\EWFSettingTool.exe)

重要

- 設定変更を行うには Administrator 権限が必要です。



- (3) 以下のダイアログボックスが表示されます。



- (4) 「OK」をクリックすると、自動的に再起動されます。
- (5) BIOS の画面が表示されます。BIOS 画面が表示されている間に [F2] キーを押してください。BIOS セットアップ画面が表示されたら本体の電源を切り、CF カードのコピーをしてください。
- (6) コピーした CF カードを使って本体を起動します。初回起動時にセキュリティ ID が変更されます。

重要

- 起動するまで時間がかかりますが、セキュリティ ID を変更中のため本体の電源は切らないでください。

- (7) セキュリティ ID が変更されると、自動的に再起動されます。

MEMO

- 起動後はライトフィルタが有効になりますので、再設定の必要はありません。
- セキュリティ ID が変更された場合、MACHINE_NAME が変更されイベントエラーが発生します。
イベントログエラー発生による影響はありません。

5.2 CF カードのコピー手順（OS の言語を変更する場合）

- (1) ライトフィルタを無効にしてから実施してください。
ライトフィルタが有効の場合は設定できません。
☞ [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)

- (2) Set Lang Shell.exe を起動します。以下のダイアログボックスが表示されたら「はい」をクリックします。

(起動ファイル先は、C:\¥Proface¥LangShell\Set Lang Shell.exe)

重要

- 設定変更を行うには Administrator 権限が必要です。



- (3) 以下のダイアログボックスが表示されます。



- (4) 「OK」をクリックすると、自動的に再起動されます。
- (5) BIOS の画面が表示されます。BIOS 画面が表示されている間に [F2] キーを押してください。BIOS セットアップ画面が表示されたら本体の電源を切り、CF カードのコピーをしてください。
- (6) コピーした CF カードを使って本体を起動します。初回起動時にセキュリティ ID が変更されます。

重要

- 起動するまで時間がかかりますが、セキュリティ ID を変更中のため本体の電源は切らないでください。

MEMO

- 起動後、ライトフィルタの設定は無効のままです。引き続き OS の言語を変更する場合はライトフィルタの再設定は必要ありません。
- セキュリティ ID が変更された場合、MACHINE_NAME が変更されイベントエラーが発生します。
イベントログエラー発生による影響はありません。

- (7) 引き続き、OS の言語の変更を行います。

OS の言語を変更する手順は以下を参照してください。

☞ [7 OS の言語 / キーボードレイアウトを変更したい](1-17 ページ)

6 ライトフィルタによって発生するメモリリークを解消したい

ライトフィルタによって発生するメモリリークを解消したい場合は、RAM Disk を使用します。RAM Disk は直接メモリ領域に書き込みを行うため、ライトフィルタ設定の有無に関わらず指定したサイズを揮発性ディスク領域として何度でも使用できます。

ライトフィルタによって発生するメモリリークについては以下を参照してください。

 [4.2 ライトフィルタによる CF カードへのアクセス動作について](1-8 ページ)

Internet Explorer のキャッシュなどのデータ格納場所を RAM Disk にすることで、長時間メモリの空き領域を変化させずにシステムを動作させることができます。

また、ユーザーアプリケーションなどのロギングデータなども RAM Disk を有効に使えるデータのひとつとなります。

< 出荷時設定 >

ドライブレター : Z

サイズ : 4MB

MEMO

- ドライブレターの設定は変更しないでください。
- RAM Disk にはライトフィルタの有無に関わらず書き込みが行えますが、電源を切ると書き込んだ内容は失われます。
- RAM Disk を使用することで、メモリリークが完全に解消されるわけではありません。

6.1 RAM Disk の設定手順

RAM Disk の領域を変更するには以下の手順で設定を行ってください。

MEMO

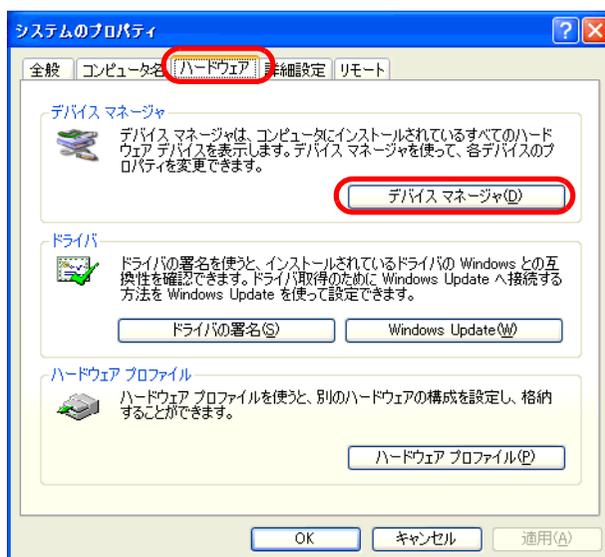
- 設定を行う前に、ライトフィルタを無効にしてください。ライトフィルタが有効の場合、変更した内容は保存されません。
設定の変更後、ライトフィルタを有効に戻すことをおすすめします。

 [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)

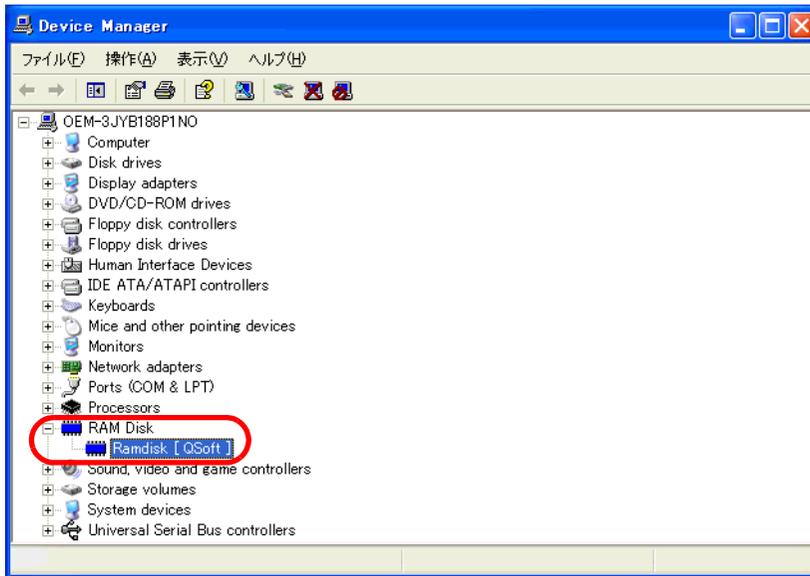
- (1) [コントロールパネル] [パフォーマンスとメンテナンス] [システム]を開きます。



- (2) [ハードウェア]タブを選択し、[デバイスマネージャ(D)]を選択します。



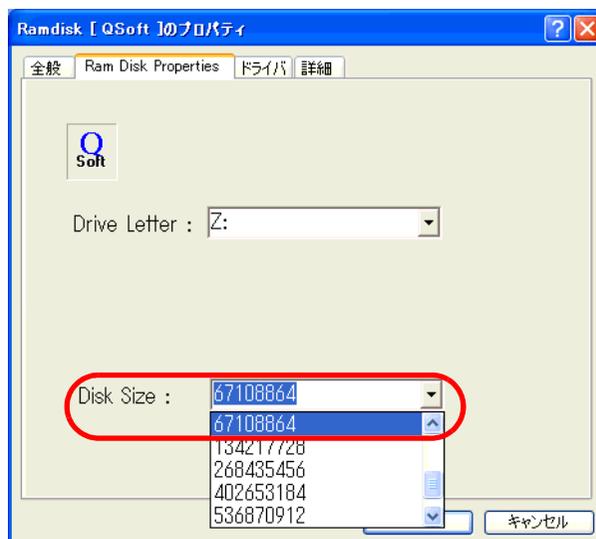
- (3) 下記のようなダイアログボックスが表示されるので、[RAM Disk] 左横の + マークをクリックし、[RAMdisk[QSoft]] をダブルクリックします。



- (4) 下記のようなダイアログボックスが表示されるので [Ram Disk Properties] タブを選択します。



(5) [Disk Size] で RAM Disk 領域を設定します。

**重要**

- RAM Disk 領域の最大値は「67108864」です。それ以上の値を設定した場合、エラーが発生します。

MEMO

- ドライブレターの設定は変更しないでください。

(6) 本体を再起動します。

7 OSの言語 / キーボードレイアウトを変更したい

XPEは英語(出荷時設定)、日本語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語の6言語からOSの言語を選択できます。また、キーボードレイアウトを入力したい言語に設定することで、キーボードによる他言語文字入力が可能となります。用途に合わせて、設定を行ってください。

7.1 OSの言語 / キーボードレイアウトの変更手順 (LangShell.exe)

重要

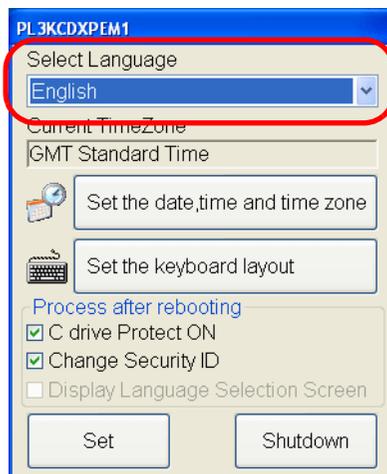
- OSの言語 / キーボードレイアウトの設定変更を行うには Administrator 権限が必要です。

- (1) ライトフィルタを無効にしてから実施してください。

ライトフィルタが有効の場合は設定できません。

 [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)

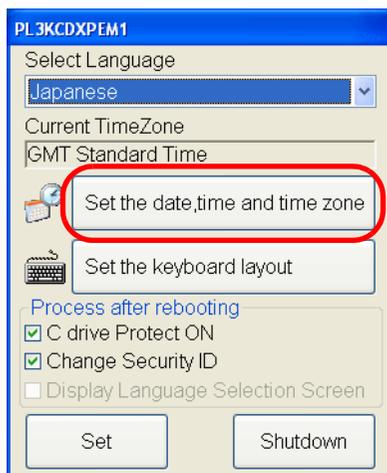
- (2) 言語選択画面が表示されるので [Select Language] で使用したい言語を選択してください。

**MEMO**

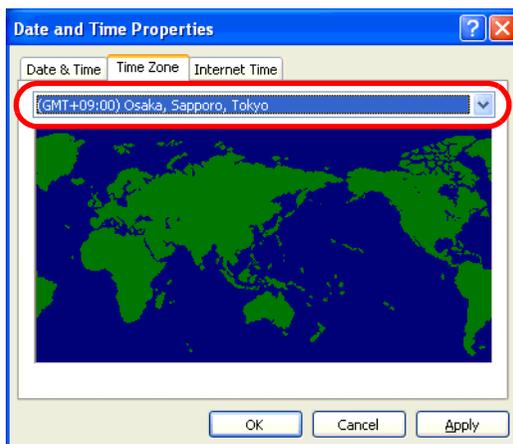
- 初回起動時は言語選択画面が自動的に表示されるよう設定されています。2回目からの言語の選択は [スタート] [ファイル名を指定して実行] を開き次の場所の実行ファイルを起動します。

C:\¥Proface¥Langshell\¥Langshell.exe

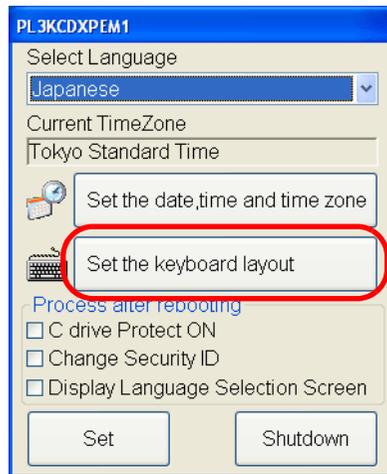
- (3) [Set the date, time and time zone] をクリックすると、[Date and Time Properties] 画面が表示されます。



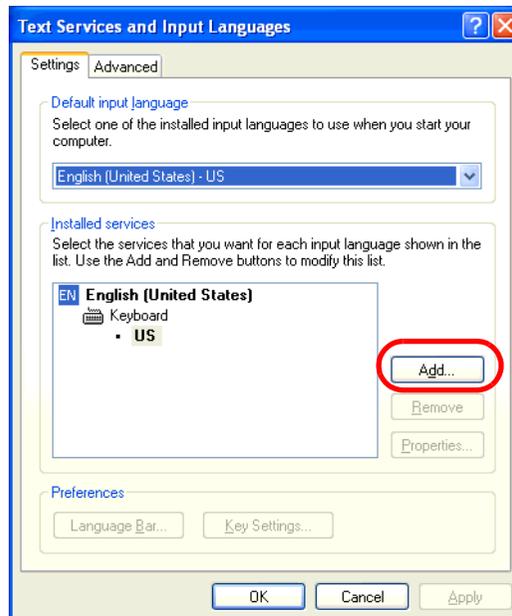
- (4) [Time Zone] タブで、タイムゾーンとして設定したい地域を選択し [OK] をクリックしてください。



- (5) キーボードレイアウトを変更するには [Set the keyboard layout] を選択します。



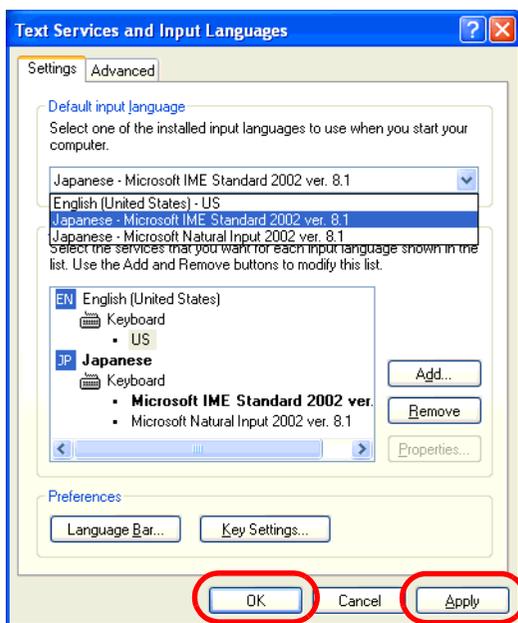
- (6) [Text Services and Input Languages] 画面が表示されます。[Installed services] の [Add] を選択します。



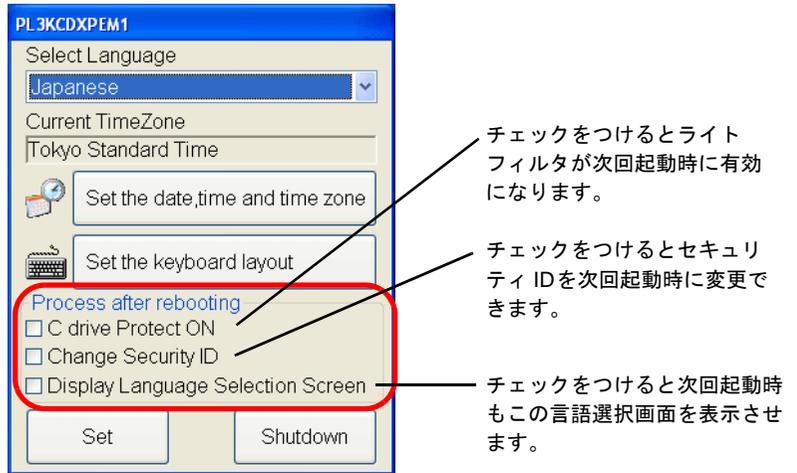
- (7) [Add Input language] 画面が表示されます。[Input language] に入力する言語を、[Keyboard layout/IME] に取り付けるキーボードのキーボードレイアウトを選択します。[OK] をクリックします。



- (8) [Text Services and Input Languages] 画面が再度表示されます。[Default input language] より選んだ言語を選択し、[Apply] [OK] をクリックします。



- (9) 必要に応じて [Process after rebooting] の設定を行ってください。



- (10) 設定を保存して OS を起動するには [Set] をクリックしてください。このまま終了するには [Shutdown] をクリックしてください。

7.2 言語選択について

OS 言語 / キーボードレイアウトを選択するためのツールには LangShell.exe (OS 言語 / キーボードレイアウトのみを変更したい場合) と SetLangShell.exe (OS 言語 / キーボードレイアウトの変更と同時にセキュリティ ID も変更したい場合) の 2 種類があります。用途に合わせて使い分けてください。

セキュリティ ID の変更に関しては下記を参照してください。

☞ [5 同じ設定環境を複数のパネルコンピュータにコピーしたい (CF カードをコピーしたい)](1-10 ページ)

MEMO

- CF カードのコピー時に OS の言語 / キーボードレイアウトを変更する以外に、セキュリティ ID の変更も同時に行いたい場合は、C:\¥Proface¥LangShell 内にある Set Lang Shell.exe を使用してください。言語選択画面が表示された後の設定手順は LangShell.exe と同じです。
- PL-3*00K シリーズ KeyPad Module 付きの製品 (以下 KPM) でもキーボードレイアウトの変更は可能ですが、KPM は US キーボードレイアウトで正常に動作するように設計されています。US キーボードレイアウト以外の入力言語では一部キーボードラベルとキーコードが異なります。

KPM については、以下を参照してください。

☞ PL3000 シリーズリファレンスマニュアル 4 キー操作で文字入力やアプリケーションを操作する

- 対応言語に関してはデジタルサポート専用サイトおたすけ Pro! に言語追加インストーラを用意しています。用途に合わせてお使いになりたい言語をインストールしてください。

<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

8 起動から作業開始までの時間を短縮したい

本体の電源を切る直前の状態を保存（休止状態）することで、次回本体を立ち上げたときに、電源を切る前の状態から作業を再開することができます（休止状態からの復帰）。システムを休止状態にすることで、通常に OS やアプリケーションの終了 / 起動を行う場合よりも時間や手間を短縮できます。

またライトフィルタが有効で、かつ常に休止状態からの復帰を行う XPE 特有の機能 (HORM : Hibernate Once/Resume Many) を使用すると、稼働しているシステムの状態を変更させることなく本体の ON/OFF ができます。

ライトフィルタについては以下を参照してください。

 [4 ライトフィルタ（書き込み禁止）の設定を変更したい](1-6 ページ)

HORM 使用時の本体の動き

ライトフィルタ有効：毎回休止状態から復帰します。

ライトフィルタ無効：休止状態からの復帰を 1 度だけ行います。

重要

- HORM を使用する場合は、CF カード以外のデバイスは使用しないでください。
- 休止状態または HORM を設定している CF カードのバックアップおよびリカバリーはしないでください。
OS が正常に起動しなくなります。
- HORM を使用する際には本体側のメモリ容量と同じだけの空き容量が CF カード側でも必要となります。出荷時の CF カード空き容量は 1.5GB です。本体側のメモリ容量が 1.5GB 以上ある場合はご使用いただけません。

MEMO

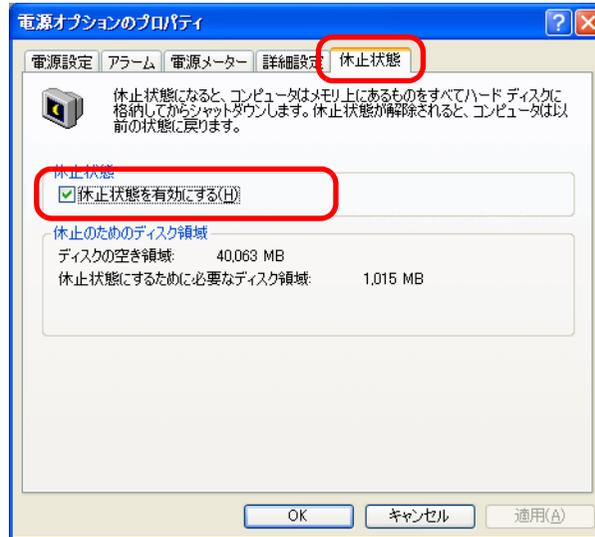
- 休止状態の設定を行う場合 Key Click を利用することによりキーボードがなくても設定は可能ですが、HORM の設定を変更（解除する）場合はキーボードが必要となります。Key Click の詳細および設定は以下を参照してください。

 [9 画面にキーボードを表示させたい](1-27 ページ)

- HORM はライトフィルタが有効の場合のみ起動します。

8.1 HORM の設定手順

- (1) 必要なアプリケーション等をインストールします。
- (2) [スタートメニュー] [コントロールパネル] [電源オプション] [休止状態] タブから、[休止状態を有効にする(H)] にチェックを入れます。



- (3) ライトフィルタを有効に設定してください。ライトフィルタの設定方法は下記を参照ください。
☞ [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)
- (4) ライトフィルタを有効に設定した時点で、自動的に再起動します。
- (5) 次回終了時、[スタートメニュー] [シャットダウン] で [Windows のシャットダウン] ダイアログを表示させます。

- (6) Shift キーを押すと [スタンバイ] ボタンが [休止状態] に変わります。[休止状態] に変わったところでクリックしてください。

重要

- 「Hibernating . . .」のメッセージが表示されている間は、電源を切らないでください。

**MEMO**

- Key Click で操作を行う場合、Shift キーをタッチしたままキーボード枠外へ指をスライドさせることにより、Shift キーが選択された状態を保てます。

- (7) 次回起動時に、本体の電源を ON すると休止状態に入る前の状態で立ち上がります。

MEMO

- HORM 起動中においては、ライトフィルタを解除できないためドライバやアプリケーションの追加、バージョンアップ等を行えません。HORM を解除してから行ってください。

8.2 HORM の解除方法

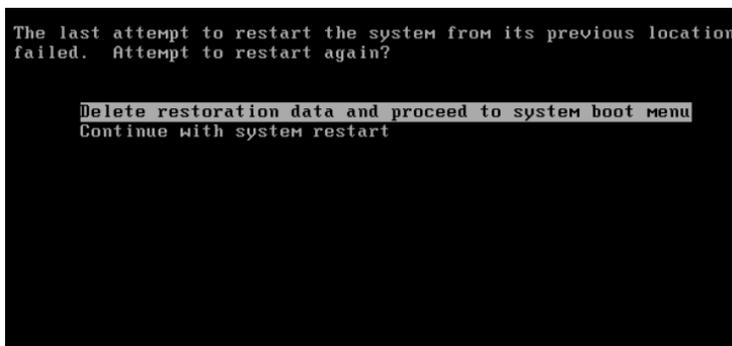
- (1) 休止状態から本体の起動を行います。
- (2) 以下の画面が表示されている間に F8 キーを押してください。



- (3) 「Delete restoration data and proceed to system boot menu」を選択してください。

MEMO

- 「Continue with system restart」を選択した場合は、引き続き HORM で起動します。休止状態は解除されません。
- 選択を行うには外付けのキーボードが必要です。



- (4) 休止状態は解除され、通常起動に切り替わります。
- (5) ライトフィルタの設定を無効にし、ドライバやアプリケーションの追加等を行ってください。
- (6) 設定が終了したら、ライトフィルタを有効に戻してください。

9 画面にキーボードを表示させたい

IN-fINITY soft 製のソフトウェアキーボード (KeyClick32) を使用することができます。ご使用前に付録のライセンス契約書を必ずお読みいただきますようお願いいたします。

☞ [1 「IN-fINITY soft 製 KeyClick32」規約](A-2 ページ)

ご使用の際にフォントサイズの変更を行う場合は、以下の図を参照に設定変更を行ってください。

MEMO

- 日本語と英語の場合のみ対応しています。
上記以外の言語でタッチパネルからのキー入力を行う場合は Microsoft 社の Screen Keyboard をご使用ください。
- ログイン時のパスワード入力には使用できません。
- コマンドプロンプトには使用できません。

9.1 入力フォントサイズの変更手順

MEMO

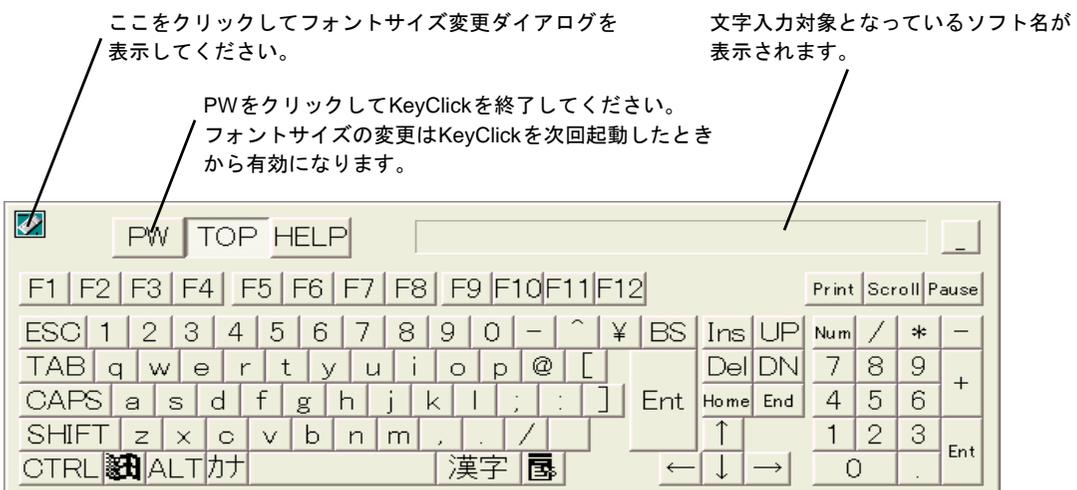
- 設定を行う前に、ライトフィルタを無効にしてから実施してください。ライトフィルタが有効の場合、変更した内容は保存されません。
設定の変更後、ライトフィルタを有効に戻すことをおすすめします。

☞ [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)

- [スタート]→[すべてのプログラム]→[KeyClick_J] (日本語版)または [KeyClick_E] (英語版)を開き、[KeyClick] を起動します。(実行ファイルは、C:\¥Proface¥KeyClick_J¥KeyClick.exe または C:\¥Proface¥KeyClick_E¥KeyClick.exe)
- フォントサイズの変更を行う場合は、次の図を参考に設定変更を実施してください。

重要

- KeyClick の設定変更を行うには Power User 以上の権限が必要です。



フォントサイズ変更ダイアログ



10 画面にタッチして操作したい

マウスエミュレーションを実現するタッチパネルドライバ（株式会社ディー・エム・シー社製）が設定できます。ご使用の前に付録のライセンス契約書を必ずお読みいただきますようお願いいたします。

 [2 Mouse Emulation Software ソフトウェア使用権許諾契約書](A-3 ページ)

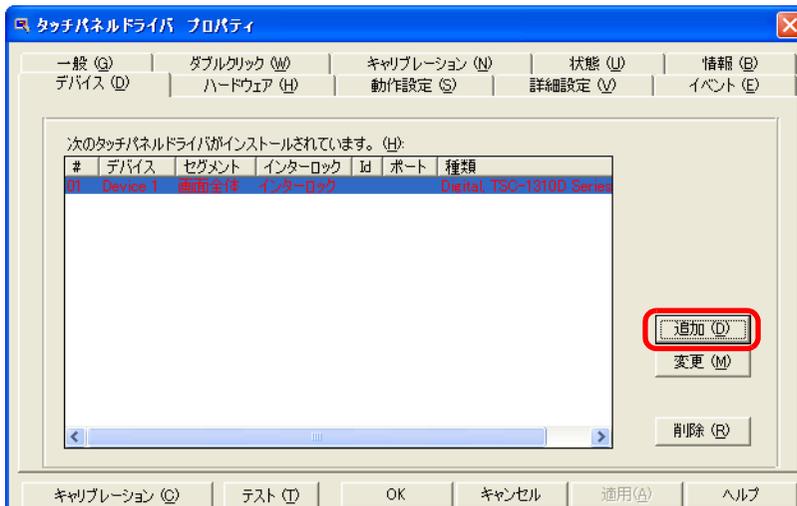
MEMO

- ・ [スタートメニュー]→[すべてのプログラム]→[UPDD]→[動作設定] を起動すると「タッチパネルプロパティ」が表示されます。タッチパネルの操作に関する詳細設定が可能です。
- ・ タッチ位置がずれるときは、タッチ位置の補正が必要です。[スタートメニュー]→[すべてのプログラム]→[UPDD]→[キャリブレーション] を選択してください。画面上に矢印マークが表示されるので、押してください。「キャリブレーション後の確認」ダイアログボックスで「OK」を押すと補正が完了します。
- ・ PL3000 シリーズをご使用の場合は、モニタにデジタル製の FP を接続するとタッチによる画面操作が可能になります。

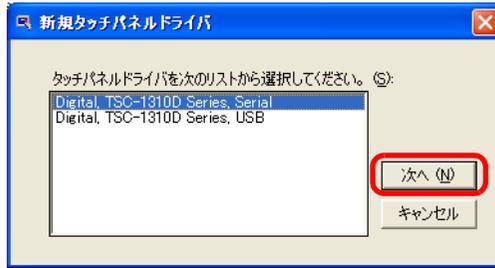
10.1 FP シリーズと本体をシリアル接続したい

シリアル接続で使用する場合は、UPDD Serial ドライバを追加インストールする必要があります。下記、手順に沿ってドライバを追加インストールしてください。

- (1) [スタート] [すべてのプログラム] [UPDD] [動作設定] を選択します。
- (2) [追加] を選択します。



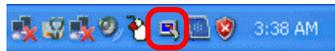
- (3) [Digital TSC-1310D Series, Serial] を選択し、[次へ] を選択します。
以降、画面の指示に従ってドライバの追加を行ってください。



10.2 タッチ操作の有効 / 無効切り替え手順

UPDD のデバイスドライバは、USB デバイス接続用ドライバがデフォルトで組み込まれています。PL3000 シリーズボックスタイプをご利用の場合、UPDD のデフォルト設定は Disable になります。FP シリーズと USB 接続する場合は、設定を Enable に変更してご使用ください。

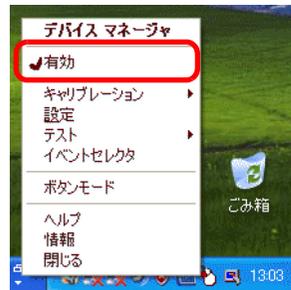
- (1) 赤枠で囲ってあるアイコンをクリックします。



- (2) [有効] のチェックをクリックして x からレに変更してください。



UPDD[USB 接続] Disable 設定



UPDD[USB 接続] Enable 設定

11 ユーザーアカウント作成時の注意事項

ユーザーアカウントを作成する際は必ず、コントロールパネルの設定を先に行ってください。コントロールパネルの設定を先に行わないと、新規ユーザーアカウントでログインした際に表示される言語が作成時の OS 言語と異なる場合があります。

コントロールパネルの設定手順は以下を参照してください。

☞ [■ コントロールパネルの設定手順](1-31 ページ)

重要

- コントロールパネルの設定を行う前にユーザーアカウントを作成した場合は、下記手順でユーザーアカウントを作成し直してください。

- (1) 作成したユーザーアカウントを削除します。

[スタートメニュー] [ファイルを指定して実行 (R)] を開きます。

control userpasswords2 と入力し [OK] をクリックします。

[ユーザーアカウント] 画面が表示されます。削除したいユーザーアカウントを選択し、[削除 (R)] をクリックします。

- (2) 下記、「 コントロールパネルの設定手順」に沿ってコントロールパネルの設定を行います。

- (3) ユーザーアカウントを作成します。

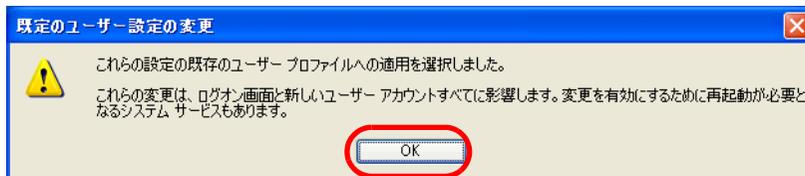
■ コントロールパネルの設定手順

- (1) [スタートメニュー] [コントロールパネル] [日付、時刻、地域の言語オプション] [地域と言語のオプション] を開きます。

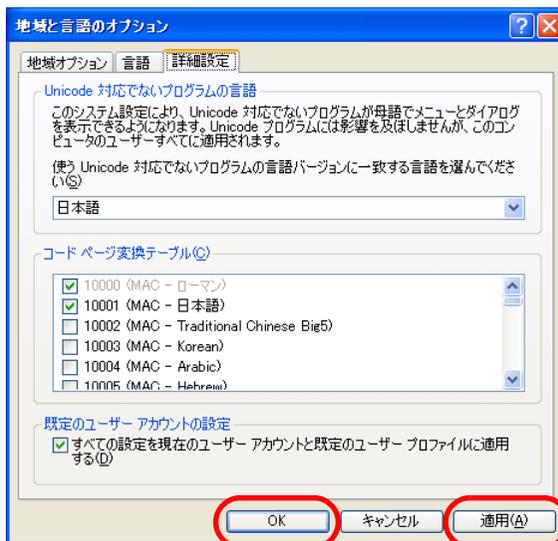
- (2) [詳細設定] タブを選択し、[既定のユーザーアカウントの設定] にチェックをつけます。



- (3) 下記ダイアログボックスが表示されますので、[OK] をクリックします。



- (4) 再度、[詳細設定] タブが表示されます。[適用] [OK] をクリックしてください。

**MEMO**

- 本体の再起動は必要ありません。

12 本体の電源を切るときの注意事項

出荷時はライトフィルタが無効になっています。

ライトフィルタで保護されていないデバイス (CF カード以外) へ書き込みを行っている場合に電源を切るとデータ破損の原因になります。

■ ライトフィルタが有効の場合

シャットダウンを行う必要がありません。他のデバイスへ書き込みを行っていないことを確認し、ハードウェアの安全な取り外しを行ってから電源を切ってください。ただし、その間に行われた OS の設定変更、CF カードへの書き込みデータは本体の電源を切るとともに破棄されます。

<他のデバイスへ書き込みを行っていないかの確認方法>

ハードディスク：本体 DISK LED が消灯しているか

USB 機器 /PCMCIA：ユーザーアプリケーションなどで書き込みを行っていないか

■ ライトフィルタが無効の場合

シャットダウンを行う必要があります。書き込み禁止設定がされていないため、OS の設定変更、CF カードへの書き込みデータが更新されます。

13 CF カードのバックアップ / リカバリについて

バックアップ / リカバリツールは、(株) デジタルサポート専用サイトおたすけ Pro! でのみ公開しています。

(URL <http://www.proface.co.jp/otasuke/>)

バックアップ / リカバリツールのダウンロードおよび使い方については、上記ウェブサイトのダウンロードのページから、「XP Embedded CF カード バックアップ / リカバリツール」をご覧ください。

バックアップ / リカバリツールは以下の仕様を満たす場合のみ使用できます。

- 同じサイズの (株) デジタル製 CF カードに対してのリカバリができます。
- (株) デジタル製 XPE CF カードのみバックアップできます。

重要

- バックアップデータがなければリカバリが行えません。出荷状態もしくは必要なアプリケーション等のインストールが完了した状態でバックアップを行ってください。
- 休止状態または HORM を設定している CF カードのバックアップおよびリカバリはしないでください。
OS が正常に起動しなくなります。
- バックアップを行うには、(株) デジタルサポート専用サイトおたすけ Pro! から、「XP Embedded CF カード バックアップ リカバリツール」の「使用方法」に記載の「バックアップ手順」を参照してください。

14 制限事項

- ヘルプドキュメントは実装していません。
- 仮想メモリ機能は使用できません。動作させるアプリケーションのメモリ使用量によっては OS が停止する場合があります。本体起動時のメモリ使用量を確認してください。
- Internet Explorer のキャッシュやインターネット インフォメーション サービスの機能は、出荷時に以下のように設定しています。
 - キャッシュファイル：最小値
 - インターネット インフォメーション サービス：無効
 - キャッシュファイルは RAM Disk に残されるので、本体の電源を切った時に削除されます。
- 休止状態時のメモリ容量の変更はしないでください。

MEMO

- Windows Update 機能は Windows を自動的に更新し、システムを最新の状態にしてくれるオンラインサポートですが、XPE については Microsoft の Windows Update サービスに対応していません。Windows Update をインターネット上で実行した場合、一部のアップデートモジュールがインストールに失敗します。絶対にインターネット上からインストールを実行しないでください。

2 | トラブルシューティング

1	トラブルの内容と対処方法.....	2-2
---	-------------------	-----

1 トラブルの内容と対処方法

MEMO

- 最新版のマニュアルや Driver、Utility は (株) デジタルのホームページからダウンロードできます。
またよくあるご質問や役立つ情報も Q&A 集として (株) デジタルのホームページに用意しています。
ご使用用途にあわせて参照してください。
<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

困ったこと	トラブルを解決するにはこちらへ
インストールしたソフトが再起動しても反映されない	ライトフィルタ (CF カードへの書き込みを禁止する機能) が有効になっていませんか?
設定を行っても再起動すると元に戻っている	☞ [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)
ライトフィルタの設定を変更したい	☞ [4.1 ライトフィルタの設定手順](1-7 ページ)
EWFSSettingTool (ライトフィルタの設定画面) が正しく動作しない	BIOS の設定で CF カードがプライマリマスタ (Disk0) に設定されているか確認してください。 ☞ ご使用のパネルコンピュータのマニュアルのシステム設定の章をご覧ください。
ネットワークに接続したが ping が通らない	ファイアウォールの設定が有効になっていませんか? 以下の手順で設定を変更してください。 (1) [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] を開きます。 (2) [ネットワークとインターネット接続] をダブルクリックして開き、続いて [ネットワーク接続] を開きます。 (3) [ローカルエリア接続] をダブルクリックして [ローカルエリア接続のプロパティ] を表示させます。 (4) [詳細設定] タブを選択し、[Windows ファイアウォール] の [設定] を開きます。 (5) [詳細設定] タブをクリックし、[ICMP] の [設定] を開きます。 (6) [エコー要求の着信を許可する] にチェックを入れます。
CF カードをリカバリしたい	(株) デジタルサポート専用サイトおたすけ Pro! からリカバリツールをダウンロードしてリカバリを行ってください。リカバリを行うには、事前にリカバリツールを使用し、CF カードのバックアップデータを保持しておく必要があります。 ☞ [13 CF カードのバックアップ / リカバリについて](1-34 ページ)
CF カードのバックアップを取りたい	☞ [13 CF カードのバックアップ / リカバリについて](1-34 ページ)
タッチ位置がずれている	タッチ位置の補正を行いましたか? ☞ [10 画面にタッチして操作したい](1-29 ページ)
「The CF card is broken. Recover the CF card.」というエラーが出る	CF カードが正しく動作していません。リカバリを実施してみてください。それでも同じエラーが表示される場合は CF カードが破損している可能性があります。

困ったこと	トラブルを解決するにはこちらへ
言語の切替を行おうとすると「Set to "Protect OFF" by using EWFSetting Tool.」というエラーが出る	ライトフィルタが有効に設定されているため、言語の変更ができません。ライトフィルタを無効にしてください。
KPM から文字入力をすると、文字ラベルと出力される文字が異なる	<p>キーボードレイアウトは US に設定されていますか？ KPM は US キーボードレイアウトで正しく動作するように設計されています。</p> <p>☞ [7 OSの言語/ キーボードレイアウトを変更したい](1-17 ページ)</p> <p>☞ PL3000 シリーズリファレンスマニュアル 4 キー操作で文字入力やアプリケーションを操作する</p>
ユーザーアカウントを新規作成したが、作成時の OS 言語と異なる言語が表示される	<p>ユーザーアカウントを作成する前にコントロールパネルの設定は行いましたか？</p> <p>☞ [11 ユーザーアカウント作成時の注意事項](1-31 ページ)</p>
Internet Explorer を使って Web サーバへアクセスした際にユーザー名とパスワードが記憶できない	<p>セキュリティ ID を変更したアカウントでは、Web サーバのログインダイアログボックスにある [パスワードを記憶する] が機能しなくなります。</p> <p>以下の場合は新規のアカウントを作成し、再度ログインしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セキュリティ ID の設定がデフォルト（本体購入時のまま）である場合 ・ ユーザーアカウント作成後にセキュリティ ID を変更した場合 <p>☞ [11 ユーザーアカウント作成時の注意事項](1-31 ページ)</p>
XPE にソフトウェアをインストールする際、[ファイルが必要] ダイアログボックスが表示される	<p>[ファイルが必要] ダイアログボックスで求められるファイルのパスを [コピー元 (C):] に指定します。</p> <p>DLL ファイル (***. DLL) の場合 : C:¥WINDOWS¥System32</p> <p>SYS ファイル (***. SYS) の場合 : C:¥WINDOWS¥System32¥drivers</p> <p>上記のパスにファイルが存在しない場合は、弊社サポートダイヤルにお問い合わせください。</p>

付録



1	「IN-fINITY soft 製 KeyClick32」規約	A-2
2	Mouse Emulation Software ソフトウェア使用権許諾契約書	A-3

1 「IN-fINITY soft 製 KeyClick32」規約

「IN-fINITY soft 製 KeyClick32」規約

著作権は、IN-fINITY soft が所有しています。本プログラムの使用ならびに使用不能におけるいかなる損害に関して一切責任を負わないものとします。また、本プログラムに不具合が発見されても作者は不具合を修正する義務を負わないものとします。

2 Mouse Emulation Software ソフトウェア使用権許諾契約書

「Mouse Emulation Software(TSC-1310D/DD)」ソフトウェア使用権許諾契約書

本製品を開封又は御使用前に、以下のライセンス契約を必ずお読みください。

本使用許諾契約書は、下記に示されたソフトウェア製品（以下「本ソフトウェア製品」）に関してお客様と株式会社ディ・エム・シー（以下「DMC」）との間に締結される契約書です。本ソフトウェア製品を開封、インストール、複製又は使用することによってお客様は本契約に同意し、契約が成立したものとします。事前に本契約を十分に御確認、御理解をお願いいたします。本契約に同意されない場合、DMC はお客様に本ソフトウェア製品の開封、インストール、複製、又は使用のいずれも許諾できません。そのような場合、未使用の本ソフトウェア製品を直ちに購入先へ御返却ください。お支払済みの代金が御返却されます。

1. 著作権

本ソフトウェア製品の著作権は Touch-Base Ltd. に帰属します。

2. 使用権

DMC は、本ソフトウェア製品に含まれるプログラム及びこれに関する資料を、以下の条件で使用できる譲渡不能の非独占的使用権をお客様に許諾します。

お客様は、本ソフトウェア製品を、ライセンス許諾される本ソフトウェア製品及びそのコピーを複数のコンピュータによる本ソフトウェア製品の使用を許可するライセンスを購入していない場合は、特定の1台のコンピュータ上でのみ本ソフトウェア製品を使用する権利を与えられます。

お客様は、使用を許可されているコンピュータ1台につき1部を、バックアップの為にのみ本ソフトウェア製品のコピーを作成することができます。上記以外の目的の為に本ソフトウェア製品の一部又は全てをメディアを問わずコピーすることはできません。

お客様は、本ソフトウェア製品のコピー全てに対し、本ソフトウェア製品と同様の著作権表示等を明記しなければなりません。

本ソフトウェア製品及びそのコピーの無体財産権は DMC 及び DMC への供給者に帰属します。

3. 使用期間

本契約は、契約成立時から、DMC 又はお客様が本契約に従い解約するまで続きます。

4. 使用権の消滅

お客様は、本ソフトウェア製品及びそのコピーの内容物全てを抹消、又は破壊することにより、いつでも本ソフトウェア製品の使用権を消滅させることができます。

DMC は、お客様が本許諾内容に違反した場合、通知によりお客様の本ソフトウェア製品の使用権を消滅させることができます。この場合、お客様は本ソフトウェア製品及びそのコピーの内容物全てを1ヶ月以内に DMC に返却するものとします。

5. 保証

DMC は、本ソフトウェア製品購入後、90 日間本ソフトウェア製品が記録、格納されている媒体自体又は当該媒体に於ける本ソフトウェア製品の記録状態に材質上又は製作上の瑕疵が無い事を保証します。万一、本保証期間中に本ソフトウェア製品が記録、格納されている媒体自体又は当該媒体に於ける本ソフトウェア製品の記録状態に材質又は製作上の瑕疵が認められた場合、本ソフトウェア製品が記録、格納されている媒体を交換いたします。但し、お客様から当該瑕疵につき本保証期間内に通知していただくことを条件とします。

DMC は、前項の本ソフトウェア製品が記録、格納されている媒体の交換を除いては、本ソフトウェア製品に対していかなる明示、又は暗黙の保証を与えることは無く、お客様に供給されたときの状態にて使用許諾します。又、本ソフトウェア製品がお客様の特定の使用目的のために適切又は有用であること、本ソフトウェアの実行が中断されないこと及びその実行に誤りが無いことを保証する物ではありません。

本状に基づく DMC の責任は本ソフトウェア製品が記録、格納されている媒体の交換に限定されるものとし、DMC はその他の法律上の瑕疵担保責任を含む全ての明示又は黙示の保証責任及び本ソフトウェア製品に起因するお客様の逸失利益、特別な事情から生じた損害、データなどに対する損害及び無体財産権に関し第三者からお客様に対してなされた損害賠償請求に基づく賠償責任などの一切の責任を負いません。

6. お客様の義務

お客様は、本ソフトウェア製品が著作権法等によって保護される無体財産権を含む機密情報又は財産的情報を有することを認識するとともに、以下の行為をしないものとします。

本許諾条項以外により本ソフトウェア製品を使用、コピー、又は解析、改変する行為。

本ソフトウェア製品を第三者への譲渡、賃貸、再許諾する行為。

本ソフトウェア製品に直接記録、又は本ソフトウェア製品が記録、格納されている媒体に表示されている著作権を含む無体財産権の権利表示を削除、又は変更する行為。

7. 輸出規制

本ソフトウェア製品が外国為替及び外国貿易管理法及びこれに付随する法令の規制対象品となる場合、お客様は当該法令及び規則を遵守するものとします。

株式会社ディ・エム・シー

<http://www.dmccoltd.com>

本社 〒 979-0401 福島県双葉郡広野町広野工業団地

TEL: 0240-27-4030 FAX: 0240-27-4025